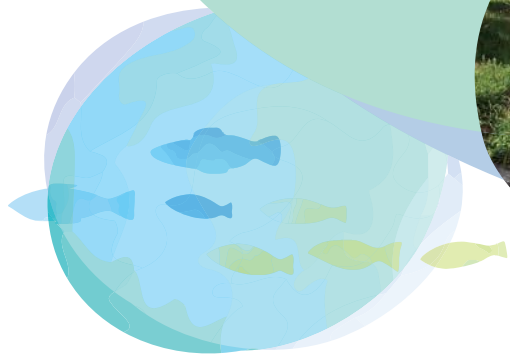


・き・れ・い・に・暮・ら・す・

奈良県スタイルジャーナル

vol. 5
August
2018

～きれいな大和川を目指して～



NARA PREFECTURE
奈良県



Before



After

満開の桜で
美しい川と
町づくり

写真左：桜植樹前の堤防
（平成 19 年 8 月）

写真右：岡崎川沿いの桜風景
（平成 30 年 3 月）



安堵桜遊会
（岡崎川の桜を守る会）
胡内 正之 氏

草刈りなどに参加してくれる住民の方々との活動を通じて生まれた絆を大切に、県とも協力しながら活動が継続できる環境をつくり、次世代が活躍する姿を見守りたいです。

ヒントは家の前にあった10本の桜でした

大和平野にある多くの支川が合流し大阪湾へと続く大和川は、安堵町の南側を静かに流れています。安堵町では、町のほぼ中央部を流れ、大和川の支川でもある岡崎川の美化活動を展開しています。中でも安堵桜遊会は誰もがその美しさに目を奪われる〈桜〉を通じて、「きれいな河川、愛される川づくり」に向けた活動を進めてきました。

会長の胡内正之氏は、安堵町で生まれ育ち、しばらく安堵町を離れていましたが、平成14年に町へ戻り、平成19年より県主催の「シニアリーダーカレッジ」に参加、続けて「地域活動コーディネーター講座」を受講されました。胡内氏は、「この講座から安堵町で何が出来るのかを考えるようになり、安堵町を離れていたので分からない事も多く、町内を歩いてみたのです。すると、町に何もない、桜や緑の木々もない」と思いました。きれいなグラウンドや公園はあるが、横の堤防には草が無造作に生え、見栄えも悪く、散歩も出来ない状態で、「これはダメだ」と思いました。その時に思い出したのが、転出先で住んでいた家の前の公園にあった10本の桜。桜が咲けば皆が集まり花見をしたり、木の下で話したり、そんな活気のある賑わいをつくる事ができないだろうか？と思ったのです。」

平成19年6月、
直接町長に協力を依頼しスタート

「目的は、安堵町住民の憩いの場をつくる事と、桜の育成を通して新規住民との交流をはかる事。旧住民より新規住民が多くなり、なかなか交流もできていない状況でしたから、桜を植える時に子どもさんや若い世代にも参加してもらい、交流の始まりにつながればと思っていましたね。平成19年6月に安堵町長に協力を依頼したことをきっかけに、奈良県郡山土木事務所と安堵町からも協力いただいて活動を開始しました。」

河川への思いは町づくりへと広がる

活動の中で一番の問題は、やはり活動資金の調達です。

「桜の植樹もまとまったお金がない状態から始めましたので、まず寄付金の呼びかけをしながらできる事を考え、桜の里親制度を企画しました。これは桜の苗に自分の名前を書いた札をつけて里親のように育てるというもので、当初は90本、後に113本になりました。会員募集のチラシをつくって参加を募り、参加者からは年会費をいただき、県の「地域が育む川づくり事業」にも参加し、補助金をもらうなどして資金を維持させました。」

安堵桜遊会は、現在、個人・企業・団体全てを含むと91名もの有志が集い、岡崎川の河川維持管理を目的とした草刈りやごみ拾い、上流の桜並木の草刈り、大和川一斉清掃の参加、桜を楽しむ夜桜祭り（毎年4月）や町の教育委員会と協力し、国指定の重要文化財の中邸（昔の武家屋敷）の竹林間伐などを行っています。



はスマートIC



岡崎川の美化活動等を通じ安堵町の活性化に力を入れる安堵桜遊会の活動の根底には、胡内氏の岡崎川と安堵町への愛情と、次世代の住民が住みやすく誇りを持てる町にしてバトンを渡したいという強い思いがあります。そんな思いで行った植樹祭のセレモニーでは、里親になった方が札に名前と共に願いを書き込んだり、スコップやバケツを手にした多くの子どもたちが来てくれたといいます。

胡内氏の思いや安堵桜遊会の取組は、確実に広がりに伝わっているのです。

桜を「育てる」から「守る」会へ

平成19年12月から里親を募集、平成20年3月2日に植樹し丸10年、今年で11年目を迎えます。今では植えた桜も大きく成長しましたが、少なからず問題もあったといいます。

「里親さんは約80名ほどですが、全員が常時桜の面倒を見ることも困難であったことから、「育成サ

ポーター」というものを置きました。これは里親さんでなくても桜の成長をサポートしてくれる人たちのことですが、日が経つにつれサポーターの参加率も下がりました。また桜も生き物ですから育ちの良し悪しがあり、そうなるも桜の育ちの差を快く思わない方もあったと思います。そこで植樹から10年、桜も成長したということで区切りを付け、里親制度をやめて今ある桜を守っていこうとなりました。今までは「育てる会」でしたが、この4月からは岡崎川の桜を「守る会」として再スタートしています。」

現在は、桜の季節になると町外からも多くの人が訪れ、見知らぬ人が「きれいですね」と、見回りをする胡内氏に声を掛けてきたり、花嫁・花婿姿のカップルが桜をバックに結婚式で使うビデオを撮影したりと、まさに愛される憩いの場となっています。また平成21年、県に岡崎川の川底をさらって土砂を取り除いてもらうと、遊歩道が顔を出し景観や水の流れが一変。子どもたちが川辺で遊ぶようになりました。

安堵桜遊会は、平成22年に知事から第一回「あしたのなら」で表彰されました。これは奈良県民に感動を与える活動などをする団体や個人を表彰するというものです。また平成24年には公益財団法人日本さくら会から「さくら功労者」、平成28年には公益社団法人日本河川協会から「河川功労者」を受賞されました。

「活動を認めていただき、また地域住民の融和と一体感に繋がった事は確かですし、喜んでくださる方もいるので意味ある事をしている自負はありますね。」

次世代が続けられる環境づくりも重要な活動のひとつ

今、胡内氏が懸念する事は後継者問題。安堵桜遊会の最年長は83歳で胡内氏も82歳、メンバーの殆どが70代後半で高齢化が進む中、次世代への呼びかけも重要な活動のひとつです。

「そろそろという所までできています。この問題は恐らくどの団体も抱えてらっしゃる問題だと思えますね。私は一緒にやりたいと言ってくださるなら町外の方でもいいと思っています。」

桜や町に対する愛情をもって活動されている安堵桜遊会の皆様が、これからも美しい岡崎川と満開の桜を守っていかれることでしょう。



定期的な草刈りや清掃活動により、岡崎川を守っています。



安堵桜遊会のメンバー きれいな川、美しい町づくりを目指し活動しています。

菰川を憩いの場に
メンバ―も楽しめる活動で、
きれいな川づくり



Before After

写真左：ヘドロが溜まっていた菰川
(平成 22 年 5 月)

写真右：さぎがやってきた
(平成 27 年 9 月)

汚れきった川に 我慢できませんでした

菰川は、奈良市を流れる佐保川中流部の大和川の支川で、平成 20 年頃には悪臭が問題になるなど水質の改善が急務となりました。現会長の金野秀一氏は議員をされていた事もあり、悪臭に関する住民の声を聞く機会も多かったといいます。

「悪臭は苦情が来るほどの状態で、夏場などは臭くて窓が開けられませんでした。そういった声を聞くうちに、私ができることはないかと思ひ、協議会の前身となる「菰川を美しくする会」という NPO のボランティア団体をスタートさせ、平成 22 年 1 月 30 日には佐保、佐保川、大宮、大安寺西、4 つの自治連合会と流域 27 自治会で「菰川環境美化協議会」を結成しました。現在は、県の河川課、奈良土木事務所、奈良市下水道課からも協力がいただき活動しています。」

EM 等による水質改善の取組

活動の中で金野氏は、まず河川浄化活動に関して調べ、EM という有用微生物群と出会いました。「この EM は乳酸菌や酵母、光合成菌などが混ざっ



菰川環境美化協議会
金野 秀一 氏

「協議会になってからは川の汚れや臭いのことだけでなく、菰川を取り巻く環境や暮らしを考える活動も増えました。市の下水道課との一層の連携・協力する機会も増えたので、活動というか事業という感覚で取り組んでいます。」

たもので、河川をきれいにした事例が報告されました。実際、岡山や四日市に視察に行き、溜まっていたヘドロが分解されたと聞きました。この EM は NPO 法人を中心に全国へ広がりましたが、奈良県でも奈良公園にいる鹿の尿の臭い消しに使えないかということで、鏡池で EM を試すことになりました。準備には東大寺学園幼稚園の園児さんも手伝ってくれましたね、結果、鏡池もきれいになり臭いもなくなりました。そんな EM を菰川にも平成 17 年から投入し、約 5 年間をかけヘドロを減らし悪臭を少なくする事に成功しましたが、継続作業の必要もありました。決して悪臭がなくなった訳ではなかったのです。」

その理由は、もともと水源が乏しく、さらに、下水道の整備も進んだ事から菰川の水量が減ったことで結果、川の水が滞留して悪臭が発生してしまっただけです。

「そこでまず川の水量を増やして欲しいと県の河川課や奈良市の河川課、下水道課と交渉を始め、2010 年の平成遷都一三〇〇年の時に県から協力をいただき、佐保川から一定量の水を菰川に直接引いてもらいました。」

その結果、平成 20 年は 9.2 mg/l であった BOD※1 値が、平成 28 年には 3.5 mg/l となり、水質は大幅に改善されています。



EM を投入

※1 BOD (生物化学的酸素要求量) …河川の汚濁を測る代表的な指標。数値が大きいほど汚濁が進んでいます。



花植え



草刈り

きれいな川づくりから 親しみのある川づくりへ

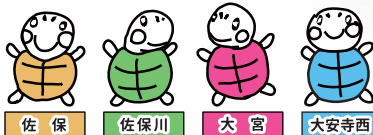
協議会への参加人数は約200名。各自治会で河川清掃や、ごみ拾い、草刈りなどの地域清掃を行っています。今後は、「菰川に親しみを持ってもらえる活動」にも力を入れたいと言います。

「やっと住民に川がきれいになったという意識を持ってもらえるようになったので、今度は川を楽しんでもらえるようなこと... そうなれば関わってくれる人も増えるかもしれませんね。そのために県にはいろいろ協力してもらっています。例えば昨年、河川沿いに、遊歩道、ベンチや花壇等、県民が親しめる空間（修景施設）をつくっていただきました。またここ2〜3年、治水対策のため河川の底を下げる「床下げ」や佐保川からの増水実験に取り組んでいただき水量が増しました。さらに、川にある「とんど」という土落としのところに鯉を放流し、環境を整備しました。今後は魚道を設置する予定です。

その他にも花の植栽、維持管理を行っています。夏の暑い時、一人で花壇の草抜きをしたり、家からペットボトルに水を入れて持って来て水やりをしてくれるメンバーがいます。そういう人の思いもすっかり形にできる活動にしたいといけませんし、参加して楽しいと思ってもらえる会にするのが私の仕事です。」



発足当時、菰川に多くの亀がいたことから「菰川の象徴」としてデザイン。4つの自治連合が力を合わせ、亀も笑顔になる美しい菰川にしたいという願いを込めています。



笑顔や笑い声のある 菰川を見ると 活動の手応えを感じます

汚い臭いと言われていた菰川が徐々にきれいな姿になってきました。その変化を目の当たりにして金野氏は大きな手応えを感じています。

「まだ、川がきれいになったとは言えませんし、3.8kmの川ですからやることもたくさんあります。でも目に見えて変わったのは粗大ごみがなくなりました。今まで川をごみ箱のように思っている人もいましたから自転車なども平気で捨てられていました。そんなごみがなくなったのも活動の効果だと思えます。また川に鯉がいる話をしましたが、夏になると親子で鯉つりをする姿も見られます。」



協力し合って作業をする事で
美しい環境づくりへの意識がひとつになります。

せつかく鯉を増やしたのに...と思うのですが(笑)、今まで水質ワーストにランキングされていた川で遊ぶ人がいる事は本当に凄いですよ。小魚も増えてきたので産卵もしているようですし、犬の散歩をする人の姿も見られるようになりました。だからこれからは「その後」の事を考えないといけません。例えば修景施設も今は法華寺東町第四自治会が管理していますが、今後誰が管理するのか?ということ。アクションがあった時どうするのか? バーベキューや花火をした時に出るごみはどうするのか?など、「その後」に出て来る問題の解決の仕方、住民の方たちの楽しみ方も変わってきます。難しい問題ですが、知恵を集めて乗り越え、成功事例にしたいです。」

各自治会がそれぞれの個性を活かしながら結束し、県や市とも連携をとりながらこれからも活動を続けられていくそうです。



夏休みいきもの調査隊

5市町村が力を合わせて
「水遊びのできる川」を
実現させます

全国ワースト
ランキングからの
脱却をめざして

平成6年、当時
全国ワースト2位
といわれた大和川
の水質を改善する
ため、奈良県主導
の「生活排水クリ
ンアップ推進事業」
のモデル事業とし
て、飛鳥川流域の
橿原市、田原本町、
三宅町、川西町、
明日香村の5市町
村がひとつとなり、
飛鳥川流域生活排
水対策推進会議が
スタートしました。
水質悪化の原因
が生活排水とい
うことから、主な活
動として、家庭か
ら出る廃食用油の
回収や近鉄八木駅

前で街頭キャンペーンを展開し、川に汚れを流さ
ない取組を呼びかけています。

また、「飛鳥川流域河川不法投棄防止パトロー
ル」の実施の他、県主催の大和川一斉清掃への参
加や、各地域での定期的な清掃活動など、きれい
な水辺空間づくりを進められています。

参加型のイベントによる
環境教育の実施

参加型のイベントとして行ってい
る夏休みいきもの調査隊（リバー
ウォッチング）では、専門家の指導のもと、子ど
もたちが川に入って様々な生き物を見たり捕まえ
たりし、生き物のこと、水のことを学びます。また、
小学4年生を対象とする出前授業では、簡単な水
質検査を実施し、川の汚れと家庭排水の関係を
知ってもらいます。この授業の内容を子どもから
親に伝えることにより、親子の気づきとなって
日々の水の使い方や行動が変わってくるそう
です。

活動が確かに活かしている

活動を通じて「水や環境に対する想いは皆が
持っている」ことを感じるそうです。
街頭キャンペーンで「私も頑張るわ」
と声をかけてくれる人がいたり、イ
ベントに家族で参加したりと、水や
環境に何かしらの興味を持ってく
れていることが分かり、だからこそ今
後も様々な情報を発信して興味を持
ち続けてもらい、理解を深めてもら
いたいと考えているそうです。

活動以来、水質も確実に改善して
います。年に一回、水質検査を行っ
ており、川の汚れの指標であるBOD
の数値は右肩下がりで推移してい
ます。また、下流では鮎が遡上して
いるという声も聞くので、本推進



議が掲げる「水遊びのできる川づくり」に近い
てきたと手応えを感じているそうです。

個々の意識の変化が
きれいな飛鳥川につながる一番の近道

今後は日本一の清流を目指したいと考えている
そうです。そのためには、水に対する個々の意識
こそ大切で、一人一人が水の使い方など日々の生
活を見直せば、さらにきれいな飛鳥川になってい
くと本推進会議は考えているそうです。子どもた
ちが環境について学べる機会も増えているので、
これからの10年、20年に期待が持て、楽しみでも
あるとのこと。



小学校を訪問して水と暮らしの関わりを伝える「出前授業」は、
人気事業のひとつです。



年1回、5市町村が集まり飛鳥川流域河川をパトロール。
不法投棄ゼロを目指します。

地域で取り組む「大和川のきれいな水辺空間づくり」

奈良モデルによる水質改善の取組ときれいな水辺空間づくり

県では、大和川の水質の全国ワースト上位ランキング脱却に向け、水質改善の遅れている支川を対象に、流域の自治体や団体等と連携・協働しながら、水質改善・きれいな水辺空間づくりに取り組んでいます。

今回は、昨年度から進めている高田川・土庫川・葛城川での取組と、今年度からスタートした三代川・岡崎川での取組をご紹介します。

1 高田川・土庫川・葛城川での取組

(1) 県・市町の連携による現状分析・課題の洗い出し

高田川等の汚れの原因を調べ

大和川水質マップ(平成29年度)



汚れている ← → きれい

るため、流域の自治体である大和高田市・広陵町と連携・協働しながら、下水道の接続状況や浄化槽の利用状況等についてデータ分析を行いました。その結果、それぞれの川の流域において人口の約40〜60%が単独浄化槽やくみ取り便所(※これらの世帯からの生活排水はそのまま川に流れ込む)を利用しており、県全体値の17%を大きく上回っていました。

このことから、下水道への早期接続、浄化槽の適正な維持管理や川を汚さない生活スタイルについて、より一層促進していく必要があります。

(2) 大和川重点対策支川部会(大和高田・広陵エリア)の設置

川をきれいにするためには、地域ぐるみでの取組が重要です。このことから、県・流域の自治体、自治会等で構成する「大和川重点対策支川部会(大和高田・広陵エリア)」を設置し、地域での実践活動を誘発・促進していくための「大和川のきれいな水辺空間づくり」実践計画を策定、実践活動を開始しました。

実践計画に基づく取組例

	取組例
水質の改善	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 公共下水道接続の促進 ▶ 浄化槽の適正な維持管理 [法定検査(年1回)、清掃(年1回)、保守点検(法定頻度)] ▶ 川に「汚れ」を流さない暮らしの普及・定着(食べものを残さない、食器は拭き取る、食べ残し等を直接流さない、廃食用油のリサイクルの推進 など)
きれいな水辺空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 河川美化活動団体の支援 ▶ 県植栽計画に基づく景観づくり 等

2 今年度からスタートした三代川・岡崎川での取組

高田川等と同様、三代川・岡崎川についてもBOD値が国の環境基準を超過しており、より一層の水質改善等の取組が必要となっています。このことから、

県と流域の自治体(大和郡山市・斑鳩町・安堵町)で構成する「県・市町担当課長会議」を今年の7月に設置・開催し、水質調査や各種統計データの分析等を進めていくこととしました。今後、

課題の抽出や取組の検討を進め、水質改善・きれいな水辺空間づくりの実践活動の誘発・促進を進めてまいります。



大和川重点対策支川部会 (H30.7)



生活排水が流れ込む三代川 (H30.5 撮影)



ごみがたまっている岡崎川 (H30.5 撮影)



県・市町担当課長会議 (H30.7)

「地域の河川サポート事業」参加団体募集！

～河川美化活動を支援します～

「地域の河川サポート事業」とは、より良い河川空間を創出することを目的として、県が管理している河川において、草刈り・花の植栽・清掃等の活動を行っている団体に対し、報償金の支給や保険の加入等で活動を支援するものです。

3つのプログラムがあります。活動内容にあったプログラムでご参加ください！

憩いの川づくり プログラム



内容：草刈り
要件：1回の参加人数 10人以上
延長 100m 以上、
刈り取り高 10cm 以下
支援内容：面積に応じた報償金の支給
($m^2 \times 9$ 円)
傷害・賠償責任保険の加入
看板の設置

彩り花づつみ プログラム



内容：花の植栽・維持管理
要件：1回の参加人数 3人以上
支援内容：面積に応じた報償金の支給
($m^2 \times 320$ 円)
傷害・賠償責任保険の加入
看板の設置
花苗等の物品の支給

ボランティア支援 プログラム



内容：清掃
(軽微な草刈りを含む)
要件：1回の参加人数 5人以上
年間1回以上、延長 50m以上
支援内容：報償金の支給または、
傷害・賠償責任保険の加入

詳しくは県河川課河川環境・水防係までお問い合わせください。

<お問い合わせ先> 奈良県河川課 TEL：0742-27-7504 URL：<http://www.pref.nara.jp/17237.htm>

第58回 下水道の日

県内4ヶ所の浄化センターにおいて、下水道施設の見学会と楽しい無料イベントを開催します

開催
場所

浄化センター

大和郡山市額田部南町160(近鉄ファミリー公園前駅下車)
☎ 0743-56-2830

第二浄化センター

広陵町萱野460(近鉄箸尾駅下車)
☎ 0745-56-3400

宇陀川浄化センター

宇陀市榛原福地28-1(近鉄榛原駅下車)
☎ 0745-82-5725

吉野川浄化センター

五條市二見5丁目1314(JR二見駅下車)
☎ 0747-22-8631

開催
期間

2018年

9月8日(土)～9日(日)

毎年9月10日は「下水道の日」です

詳しくはホームページにて
<http://www.pref.nara.jp/4760.htm>

🔍 下水道の日 なら 🔍 検索



下水道マスコットキャラクター
「スイスイ」

主催 大和川上流・宇陀川流域下水道協議会
吉野川流域下水道協議会

きれいに暮らす
奈良県スタイルジャーナル
第5号

2018年8月発行



奈良県エコキャラクター
「な～らちゃん」

発行
奈良県くらし創造部 景観・環境局 環境政策課
〒630-8501 奈良市登大路町 30
TEL：0742-27-8732 FAX：0742-22-1668